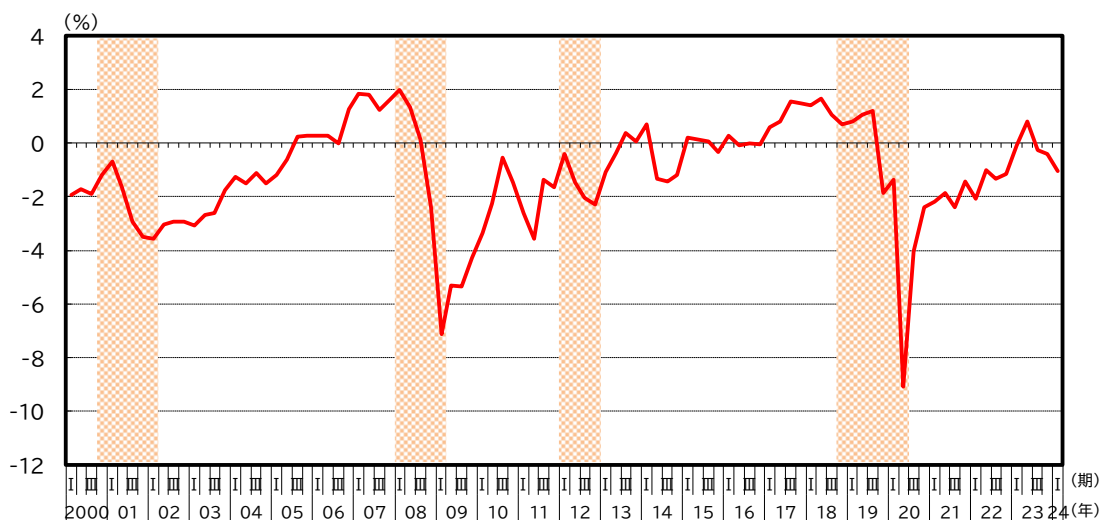


2024年1-3月期GDP1次速報後のGDPギャップの推計結果について

1. 2024年1-3月期のGDP1次速報を反映したGDPギャップ(注1)の推計結果は▲1.1%となった(図1~2、表1~2)。
2. 今回の1-3月期については、令和6年能登半島地震の影響に加え、一部自動車メーカーの生産・出荷停止事案の影響、前期のサービス輸出の大幅増という特殊要因の反動など、景気の動きによるものとは言えない各種の特殊要因の影響により、実質GDP成長率が前期比▲0.5%と押し下げられたことが、GDPギャップのマイナス幅の前期からの拡大につながっている点に留意する必要がある(図3~4)。

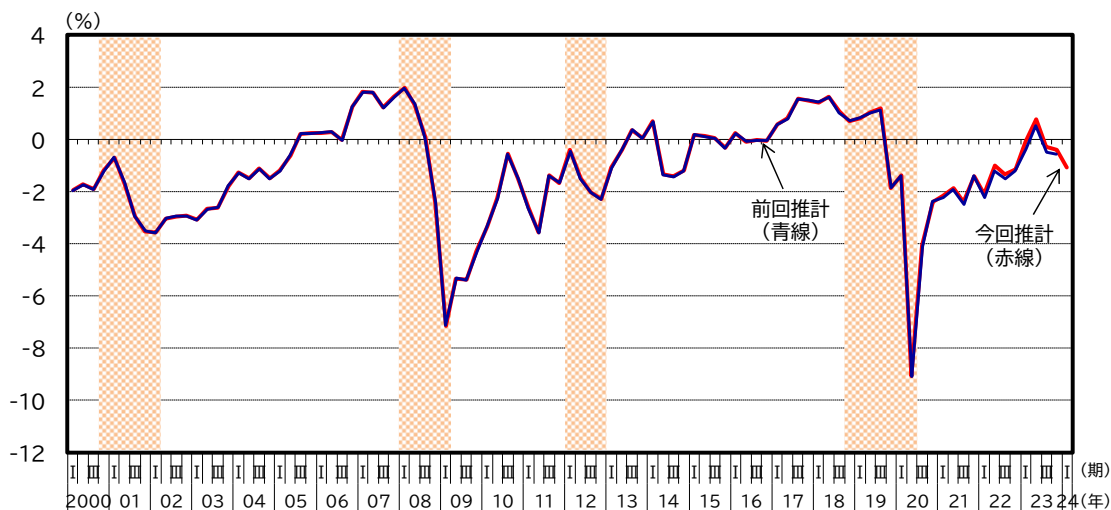
(注1) GDPギャップ=(実際のGDP-潜在GDP)/潜在GDP。この推計にあたっては、潜在GDPを「経済の過去のトレンドからみて平均的な水準で生産要素を投入した時に実現可能なGDP」と定義している。GDPギャップの大きさについては、前提となるデータや推計方法によって結果が大きく異なるため、相当の幅をもってみる必要がある。GDPギャップの推計方法の詳細は、経済財政分析ディスカッションペーパー(DP/17-3)及び今週の指標 No. 1278、No. 1294、No. 1310 を参照のこと。

図1 GDPギャップの推移



(備考)  
 1. 内閣府「国民経済計算」、固定資本ストック速報、経済産業省「鉱工業指数」等により作成。  
 2. シャドローは景気後退期。

図2 GDPギャップの新旧比較



(備考)  
 1. 内閣府「国民経済計算」、固定資本ストック速報、経済産業省「鉱工業指数」等により作成。  
 2. シャドローは景気後退期。

表1 GDPギャップの推移

	2017				18				19				20			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
24年1-3月期1次QE後	0.6	0.8	1.6	1.5	1.4	1.6	1.1	0.7	0.8	1.0	1.2	▲1.9	▲1.4	▲9.1	▲4.0	▲2.4
23年10-12月期2次QE後	0.6	0.8	1.5	1.5	1.4	1.6	1.0	0.7	0.8	1.0	1.1	▲1.9	▲1.4	▲9.1	▲4.1	▲2.4

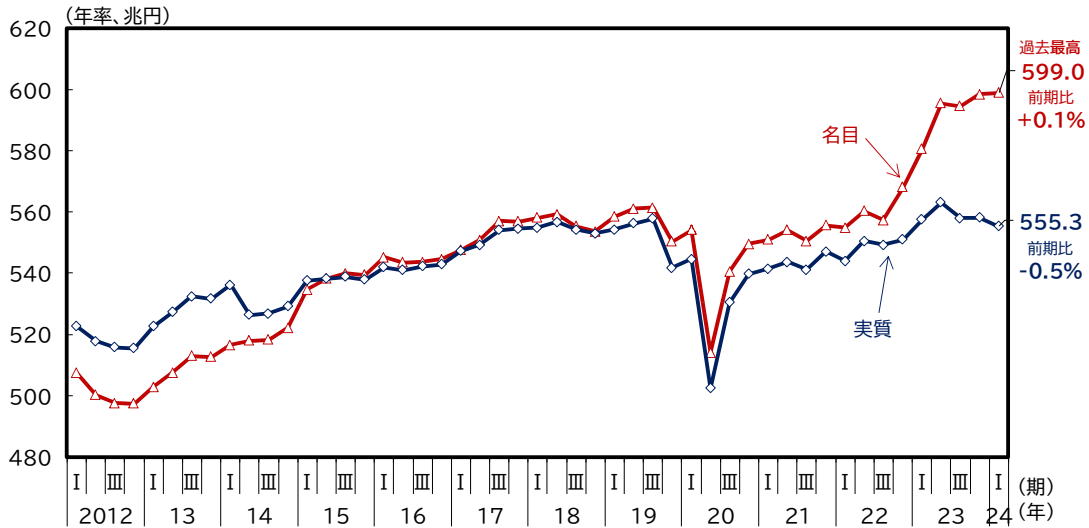
  

	2021				22				23				24			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
24年1-3月期1次QE後	▲2.2	▲1.9	▲2.4	▲1.4	▲2.1	▲1.0	▲1.3	▲1.1	▲0.1	0.8	▲0.3	▲0.4	▲1.1			
23年10-12月期2次QE後	▲2.2	▲1.9	▲2.5	▲1.4	▲2.2	▲1.2	▲1.5	▲1.2	▲0.4	0.5	▲0.5	▲0.6				

表2 GDPギャップの推移(年度)

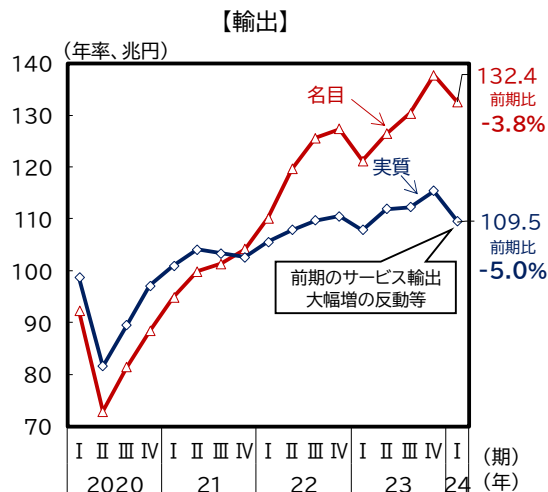
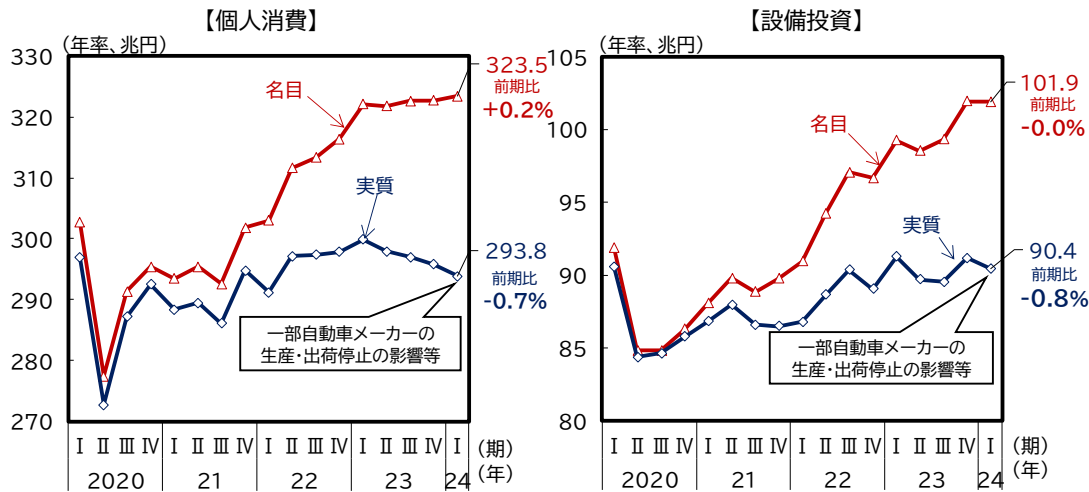
	2008	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
GDPギャップ	▲2.0	▲4.6	▲1.7	▲1.8	▲1.7	0.2	▲0.9	0.0	0.1	1.3	1.0	▲0.3	▲4.4	▲1.9	▲0.9	▲0.2

図3 GDPの推移



(備考)  
内閣府「国民経済計算」により作成。2024年1-3月期1次速報時点。季節調整値。実質金額は、2015暦年連鎖価格。

図4 個人消費・設備投資・輸出の推移



(備考)  
内閣府「国民経済計算」により作成。2024年1-3月期1次速報時点。季節調整値。実質金額は、2015暦年連鎖価格。

担当: 参事官(経済財政分析-総括担当) 付 栗山 博雅、北口 隆雅

直通: 03-6257-1569

本レポートの内容や意見は執筆者個人のものであり、必ずしも内閣府の見解を示すものではない。